

郡上農林事務所の普及活動状況

令和3年1月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 スマート農業実証プロジェクトの紹介動画を作成

「ひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の進行管理役である農業普及課にて、本年度に実施した自動運転トラクタでの耕起やアシストスーツを着用した収穫作業などの記録映像を編集し、「ひるがの高原から広がるスマート農業」と題したプロジェクトの紹介動画を作成した。

動画には、プロジェクト紹介に加え実証で使用したスマート農業機械の評価などもまとめてあり、YouTubeの専門チャンネルに登録して、コロナ禍でのリモート学習など主に農業大学校生の教材として利用する計画である。

その他に、県内の各農業高校への配布や郡上市内ケーブルテレビでの放映なども予定している。

農業普及課では、今後も様々な機会を活用し、プロジェクト成果のPRとスマート農業の普及に取り組む。



【作成した動画の一部】

多様な担い手づくり

■就農支援 ぎふアグリチャレンジフェア出展支援

1月16日 (一社)岐阜県農畜産公社ぎふアグリチャレンジ支援センターが主催する「アグリチャレンジフェア」が岐阜市内で開催され、農業普及課も中濃地域就農支援協議会として参加した。なお、雇用形態での就農希望者の募集を目的に、管内からは「たかす園芸生産協議会」と「(株)ひるがのラファノス」も出展した。

コロナ禍のなかで開催が危ぶまれたフェアであったが、それぞれのブースでは来訪した就農希望者に対して、地域の特徴や就農可能な主な品目、就農後の生活など説明を行った。

来訪者の希望する品目や条件は様々だったが、どの人も説明に対し真剣に耳を傾けていた。

農業普及課では、各協議会や経営体と連携し、各種イベントなどに出展して、新規就農者や労働力確保に向けて支援を行う。



【就農希望者への説明】

売れるブランドづくり

■だいこん 次期作に向けて個別面談の実施

1月には各農家はその年の栽培計画を立てることから、農業普及課では「ひるがの高原だいこん生産出荷組合」の生産者22戸に対して、JAめぐみの担当者とともに次期作に向けた個別面談を開催した。

個別面談では、令和3年産の栽培計画を聞き取り、各農家の栽培面積を把握するだけでなく、昨年を振り返っての反省点から必要な取り組みなどを話し合った。加えて、産地では人手不足が問題となっていることから、雇用導入についての調査も実施した。

生産者の栽培計画によると、コロナ禍で激減した外国人技能実習生に代わる労働力の確保や省力化技術の導入により、次期作は産地全体の栽培面積はやや増える見込みである。

農業普及課では、引き続き経営・技術両面での支援を行い、農家や関係機関とともに産地振興に取り組む。

■夏秋トマト 夏秋トマト部会地域別個別懇談会の開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、農業普及課とJAめぐみとともに、1月下旬に管内の6地域で個別懇談会を開催し、次年度の栽培計画を取りまとめた。

懇談会では、個人毎に収量実績や栽培記帳記録を示し、本人と相談の上で、次年度の品種や定植時期を決める。

近年は、単収低下や病害対策が問題となり、農業普及課では収量が低い部会員には品種「麗月」の導入を勧めている。

併せて、8月の繁忙期でも定期的に薬剤防除ができるよう、作業時間を意識した計画づくりについても助言した。



【成績をもとに検討】

■ユリ 花き日持ち性向上生産管理基準認証の現地審査を実施

郡上市高鷲町の「株式会社ひるがのリーリオ」では、生産するユリの日持ち性向上に取り組んでおり、平成30年から日本花き生産協会が運営する「花き日持ち性向上生産管理基準認証」を取得している。これまで、農業普及課では認証の継続取得に向けた支援を実施しており、1月25日の現地審査に立会した。

会社代表の鷲見氏からは、審査員の聞き取りに対し、施肥設計の見直しや出荷箱の温度管理など新たな取組みについて回答があり、品質向上に向けた意気込みが感じられた。

農業普及課では、日持ち性向上に対する花き農家の取組みに対し、今後も継続して支援を行う。

■大麦 新たな品種導入による高品質、安定生産を目指して

市内では、水稻の経営補完品目として41haの大麦を栽培しているが、地球温暖化など気候の変化などから農家からは、より収益性の高い品種の導入が求められている。

そこで農業普及課では、高品質・安定生産が可能な大麦品種「ファイバースノウ」の導入について提案を行い、令和3年産より試験栽培を開始した。令和3年産は、美並町内の営農組合の協力のもと調査ほ場を2ヶ所に増やしデータを収集している。

1月14日には、JAめぐみの担当とともに11月に播種したほ場の生育調査を行い、従来品種と同等の生育を確認した。

今後、生育調査を継続し現地適応性を確認していくとともに、得られたデータをもとに本格的な導入に向け、農家や出荷先のJAとの検討を進める。



【大麦ほ場での生育調査】

魅力ある農村づくり

■飼料用イネ 耕畜連携の定着を目指して

郡上市では、稲作農家による飼料イネ生産と畜産農家による利用、両者間のたい肥の流通といった耕畜連携の定着を目指しており、1月15日にはJAめぐみの郡上支店にて関係者を交え、検討会が開催された。

農業普及課からは、農業経営課の畜産担当とともに本年度実施した新たなWCS用品種「つきすずか」の調査結果を報告、他に飼料稲での農薬利用などについて助言を行った。

次年度もWCS用品種の試験を実施する計画で、農業普及課では調査ほ場の設置など栽培農家への支援に取り組む予定である。